

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 26 日現在

機関番号：32506

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2010～2014

課題番号：22320080

研究課題名(和文) コエ語族ガナグループの系統分類の再検討：シフトカイノベーションか

研究課題名(英文) Reconsidering the linguo-genetical position of the G//ana group in the Khoe languages.

研究代表者

大野 仁美 (ONO, Hitomi)

麗澤大学・外国語学部・教授

研究者番号：70245273

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 7,500,000円

研究成果の概要(和文)：この研究では、アフリカ南部で話されているコイサン諸語・コエ語族内においてさまざまな点で「非コエ語族的」な特徴を有するガナグループの位置づけを再考するために、親族名称体系と文法体系の2つの観点から、ガナグループ成員内・コエ語族内における比較対照を、さらに語族の枠を越えて近隣の言語であるホアン語との比較対照をおこなった。その結果、ガナグループにみられる「非コエ語族的」な特徴は、文法項目においてはコエ語族内で歴史的変遷の結果もたらされた連続体の一部として位置づけ可能であるが、親族名称・親族体系に関しては外部との接触によって獲得されたものとみなすべきであるという結論に達した。

研究成果の概要(英文)：This study compares Khoe languages in order to determine whether a number of anomalous features, linguistic and social anthropological, found only in the G//ana group should be interpreted as a result of regular/plausible historical change or not. The two foci of interest are person-gender-number marking systems and kinship systems. The study concludes that the PGN marking systems and relating phenomena to them, such as the extent of mobility of linguistic elements, exhibit a continuum in the family, whereas the distribution pattern of features relating to kinship systems is discontinuous and could not have been generated without influence from outside the Khoe family.

研究分野：言語学

キーワード：コイサン 歴史 親族名称 文法 コエ語族

1. 研究開始当初の背景

コイサン諸語としてひとまとめにされる言語群は、従来北部コイサン語族・中部コイサン語族・南部コイサン語族と分類されていた(名称は語族の地理的位置に基づく)が、本研究開始時期には以下のような提案・仮説が提示されコイサン研究は新しい段階にはいていた。

- (1) 分類上北部・中部・南部のどこに位置づけるべきか謎とされていたホアン語をジュー(a.k.a.北部コイサン)語と共通する祖グループをなすものとする(カ(Kx'a)語族と呼ぶ)。
- (2) 地理的に離れた位置にあり記録に乏しいクワディ語を、コエ(a.k.a.中部コイサン)語族と共通の祖語をもつものとする。

同時にコエ語族内においては、ナロ・ガナ語群の未記述の言語である八バ語とツェラ語の調査が進みつつあり、その系統的位置が修正されつつあった。そのうち、ガナグループに属するガイ語とガナ語は、言語学的・社会人類学的にもう一方のナログループの言語であるナロ語とも、さらにコエ語族内の他のどの言語とも異なる特徴を多く持ち、そのうちのいくつかを(1)で触れたホアン語と語族の枠をこえて共有していた。これらの特徴を便宜的に「非コエ語族的」特徴と呼ぶとすると、ガナグループのコエ語族内における系統的位置を再考するにあたり、それらが持つ「非コエ語族性」の詳細な検討が重要な意味をもつようになった。

2. 研究の目的

コイサン諸語・コエ語族に属するナロ・ガナ語群内の小グループであるガナグループがもつ「非コエ語族的」特徴がどのように獲得されたか、それはコエ語族内における歴史的変遷の結果であるのか、あるいはコエ語族内における「古形」であると考えべきか、それともなんらかの外因によりもたらされた借用等によってなされたものか、を以下の(1)~(3)の手順で考察する。

(1)ナロ・ガナ語群に所属する成員を明らかにする。そのために、かねてより言語学

上はガナグループに位置づけられていたが、親族体系はナロ語に近いと報告されていた八バ語と、未記述であるツェラ語の一次資料の収集と分析をおこなう。

(2)ガナグループ間において「非コエ語族的」特徴がどの程度共有されているのかを明らかにするために、一次資料を収集し分析する。

(3)ガナグループに見られる「非コエ語族的」の位置づけを、二次資料を用いてコエ語族内で比較し、語族内でみられるバリエーションは歴史的変化の結果得られた連続体と考えられるか、あるいはどこかに断続性があると考えられるかを考察する。断続性がある場合は、ホアン語(あるいはジュー語)との比較対照を通じて、どのような接触の結果共有されるに至ったと考えられるか検討する。

3. 研究の方法

ガナグループにおける「非コエ語族的」な特徴として本研究が扱うのは、ガイ語(およびガナ語)が有す以下の特徴である。ガイ語(およびガナ語)におけるこれらの精密な記述分析をもとに、それらがどの程度コエ語族内で共有され分布しているかを考察する。

(1) 親族名称・親族体系の比較

コエ語族は全体にいわゆるイロコイ型(交叉イトコと平行イトコを区別し、平行イトコはキョウダイと同じカテゴリーに分類される)の親族名称体系を有する。それと平行して親(あるいは子)と同じ世代においては親と平行オジオバを同じカテゴリーに分類する。一方、ガイ(およびガナ)語は、同世代における交叉イトコと平行イトコの分類はイロコイ型でありながら、平行オジオバの分類が「平行オジオバのうち親の弟・妹にあたるもののみ親と同じカテゴリーで、平行オジオバのうち親の兄・姉にあたるものはオジオバと同じカテゴリーに分類する」という破格の体系である。親族名称とこの体系の有無、さらにこの「非コエ語族的」な特徴と連動してガイ(およびガナ語)に存在する以下の特徴について

比較検討する。

類別的キョウダイにおける上下関係(seniority)の決定方法
冗談忌避関係における同性キョウダイの位置づけ
配偶者交換 (spouse exchange)の有無

(2) 文法項目の比較

コエ語族全体に共通する文法要素として名詞に付加する人称・性・数マーカー(以下 PGN マーカーと呼ぶ)があげられる。節中における文法関係を表すにはさらに「(ʔ)a (ʔは声門閉鎖音)」等のマーカーを用いる。一方グイ(およびガナ)語は、他のコエ語では見られない PGN そのものに「格」を組み込んだ体系を有する。そして、グイ語においては「(ʔ)a」は文法関係を表す以外の役割をはたす。グイ語における「(ʔ)a」の出現の分析と、この特徴と(恐らく)連動して存在する以下の特徴をコエ語族内で比較検討する。

文法関係の表示方法
語順(文法項目含む)における自由度

4. 研究成果

(1) ハバ語の系統分類に関しては、それまで主に音韻体系の比較に基づいて「ナ口語に最も近い」とされていたが、親族名称・親族体系もナ口と同様であること、また PGN 体系・語順・TAM などの文法項目の比較からもナ口語に近いことを明らかにすることができた。これらの結果、言語学的にも社会人類学的にもハバ語はガナグループではなくナ口グループの一員であると結論づけられる。

(2) 未記述の言語であったツェラ語の系統分類に関しては、親族名称・親族体系・PGN 体系・TAM・フォーカスマーカーなどからガナ語にもっとも近いことが明らかになった。これによってガナグループ内部のバリエーションを観察し、それに基づく歴史的变化のプロセスを考察することが可能になった。

(3) 親族名称・親族体系の比較

コエ語族において報告されている親族名称と親族体系のほぼ全体の比較分析を実施した。その結果、コエ語族内においては、親族名称体系そのものおよび上記「研究の方法」(1)であげた・の特徴についてはガナグループにのみ見られること、その seniority の決定法においては、ガナグループにおいてみられる相対的決定法がコエ語族内において有する親族名称体系と関係なく散発的に見られることがわかった。

一方、語族の枠を越えたホアン語との比較においては、ガナグループは親族体系および上記①～③の特徴のすべてを共有する(ただし2つの例外を除いて親族名称としてもちいられる形態素は共有されていない)。

これらの結果から、親族体系においては、ガナグループにおける「非コエ語族的」特徴をコエ語族内における連続体の一部として位置づけるのは困難だと結論する。また、上記のような破格な体系を獲得するにあたっては、ホアン語側における「非力語族の特徴」を同様に検討する必要があるが、そのうちの重要なものが namesake 関係(同じ名前をもつコミュニティの成員を「冗談関係」とみなすもの)の有無である。ジュエ語の親族体系において特徴的とも言えるこの要素は、ホアン語においては存在しない。その不在(あるいは消失)と破格である親族名称体系の存在が論理的な補完関係にあることを指摘した。

(4) 文法項目の比較

文法項目の比較においては、PGN マーカーの体系および先に述べた・の項目の比較の結果、これらの特徴は語族内で連続体として解釈できるという結論に至った。

近隣の言語との接触は「非コエ語族」的な文法要素(e.g. 多機能な「ka」)の他語族との共有などの事実からも明らかである。しかし、(コエ語族の特徴である) PGN マーカーに関しては、ガナグループ内でも歴史的变化が確認できる。ツェラ語はガナ語より歴史的に古いと思われる PGN マーカーの「変種」を有しており、原則目的語に

付加した「(°)a」を分析できる。一方、グイ語ではその要素は PGN マーカーに融合したと考えられ、その結果文法関係がまぎれず表示できるようになり、語順の自由化と、「(°)a」の(目的格マーカー以外への)文法機能の拡充を可能にしたと考えられる。格表示の徹底・語順の自由化・文法要素の位置の自由化という方向は有機的に関連し合う現象として解釈可能である。その方向への変化の動機として他言語との接触は想定できるが、文法関係の表示の多義性・語順の固定・文法要素の位置の固定を一方の極に置いた場合の、もう片方の極に位置づけられる存在として成立しうる体系である。したがって、文法項目の比較に関しては、ガナグループに見られる「非コエ語族的」特徴は、断続的なものではなく、コエ語族内で歴史的変遷の結果もたらされたものと結論づける。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計 5 件)

大野仁美 (2015)「グイ語の時制・アスペクト」『日本語学』34-6: 68-76. 明治書院.

大野仁美 (2014)「コエ語の時制体系」『麗澤大学紀要』98: 15-20. (査読有)

https://reitaku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=574&item_no=1&page_id=13&block_id=29

大野仁美 (2013)「物語ナラティブに置ける「時」の位置づけ」『言語と文明』11: 39-53. 麗澤大学大学院. (査読無)

https://reitaku.repo.nii.ac.jp/?action=pages_view_main&active_action=repository_view_main_item_detail&item_id=368&item_no=1&page_id=13&block_id=29

大野仁美 (2011)「グイ語会話における冗談忌避関係(2)」『麗澤大学紀要』91: 225-250. (査読有)

[学会発表](計 5 件)

ONO, Hitomi (2014) “Temporal expressions in G|ui.” 5th International Symposium of Khoisan Languages and Linguistics, Haus Bergkranz in Riezlern (フランクフルト大学), 15 July, リーツラン (オーストリア).

ONO, Hitomi (2012) “Reconsidering the avoidance/joking dichotomy among G|ui.” EuroBABEL Final Conference, Golden Tulip Hotel, (invited), 25 August, ライデン (オランダ).

ONO, Hitomi (2012) “Marital and extra-marital relationships and avoidance/joking dichotomy in G|ana universal kin categorization.” University of Edinburgh, CAS (invited), 8 June, エジンバラ (イギリス).

ONO, Hitomi (2011) “Sharing an anomalous pattern around linguistic boundary.” ICHL-20, 29 July, 国立民族学博物館、吹田市 (大阪府).

ONO, Hitomi (2011) “’a in G|ui: copula or participant marker, or something else?” 4th International Symposium of Khoisan Languages and Linguistics, Haus Bergkranz in Riezlern (フランクフルト大学), 12 July, リーツラン (オーストリア).

[図書](計 6 件)

ONO, Hitomi (forthcoming) “A comparison of kinship terminologies of West Kalahari Khoe: †Haba, Tshila,” G|ui, G|ana, and Naro. Vossen, R. et al. (eds.) Festschrift in Memory of Anthony Trail. Ruediger Koeppel: Koeln. (書名は仮) (査読有)

ONO, Hitomi (2014) “Extra-marital relationships and spouse exchange among the G|ana peoples, In Barnard, A. & G. Boden (eds.) Southern African Khoisan Kinship systems: 85-98. Koeln: Ruediger Koeppel. (査読有)

ONO, Hitomi (2011) “Two types of kinship categorization in Khoe.” In

König, C., Hieda, O. and Nakagawa, H.
(eds.) Geographical Typology and
Linguistic Areas. TUFs Studies in
Linguistics 2: 269-278. John Benjamin.
(査読有)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0 件)

取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

大野 仁美 (ONO HITOMI)
麗澤大学・外国語学部・教授
研究者番号: 70245273

(2) 研究分担者

該当なし

(3) 連携研究者

該当なし